

学びの「バトン」をつないで

会長 岩井博行

(岡山市立御津南小学校)

今年度、会長に就任いたしました、岡山市立御津南小学校の岩井博行です。皆様のお力添えをいただきながら、岡山県小学校教育研究会の発展のために努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。本会は昭和三十九年に発足し、「会員相互が、学び合い、支え合い、人を育てる」の理念の元、半世紀以上にわたり、多くの先輩方が脈々と実践を積み重ね、岡山県の小学校教員の資質向上、小学校教育の充実発展に寄与してきた歴史があります。今年度は、県内小学校（義務教育学校を含む）三百六十八校が加盟し、会員総数六千七百六十一名、十九支会、二十部会で活動をスタートしています。近年、少子化や学校の統廃合・義務教育学校への移行などにより、加盟校や会員数が減少してきています。

かつて本会の黎明期にご尽力くださった、元鹿田小学校長堀安治氏の御遺稿が、鹿田小学校PTA新聞に掲載されています。「同僚の深い研究の完成というよりも、〃われわれのこどもが、こんなに成長しています〃と胸をはって大きな声で叫んでみたい。」「教育を考える根拠には学問をおくが、お互い教師の間で考えなければならぬことは、こどもがどう変わったか、こどもが実際にどう動いているか、そうした具体的なものを問題にして語り合うのが、お互い実践家の教育の仕事であると考えつきました。」とあります。先輩諸氏も日々の実践を通して子どもの成長を実感し、それを喜び

としながら懸命に歩んでこられたのです。私たちは、そうした方々の小学校教育にかける情熱とさまざまな取組のバトンを受け継いできています。目の前の子どもたちはどんな力を身に付けるのか。そのための具体的な実践が問われています。先輩方の実践を受け継ぎながら、今の時代に求められている力をつけていかなければなりません。

さて、コロナ禍により学校教育も前代未聞の影響を受けました。そして、日々の学校生活は、「今までのあたりまえは、あたりまえではなかった」ことへの気づきからスタートし、新たな挑戦へのチャンスと捉えることになりました。本会においても、子どもたちの学びを継続し、私たちの力量を維持発展させるための取組を進めてきました。

各支会、部会では、研修機会の確保や研究研修の質の向上・維持を図りながら、働き方改革につながる研究会のもち方や輪番制の見直し、オンラインを活用した取組の推進、ホームページの活用による部会の広報など、コロナ禍後の今、有効な取組として継続されています。五月の評議員会で情報提供いただいた岡山支会では、研究校の輪番制を全市的に見直し、令和九年度から新たな輪番制を整えるための大改革に着手されました。このような好事例の共有を、さらに進めていきたいと考えています。

一方、新たな課題として、加盟校や会員数の減少による、「支会の統合」や「生活科部会と総合的な学習部会の統合」が検討されています。

過去にも、備前支会と和気支会が統合されています。今回は、赤磐支会と加賀支会、久米支会と苫田支会がそれぞれ統合し、「赤磐・加賀支会」「久米・苫田支会」に移行する準備が進められています。この統合により、会員の負担軽減と研修の活性化が期待され、持続可能な取組の方策を示してくださることでしょう。

「生活科部会」「総合的な学習部会」は、これまでも研究大会を合同で実施してきた経緯があり、他県の多くで両部会を統合した研究体制が組まれています。赤磐支会内では、両部会の連携を進め、研究部員の連携や研究内容の継続、研究方法の共有など、合同によるメリットが形となって示されています。加えて、授業研究の内容や方法についての検討も進め、公開授業ありきではなく、多様な研修形態・内容の事例も蓄積されています。

「支会の統合」は次年度から、「二部会統合」は次年度の合同事務局設置を目途に進めていく予定です。統合による規約改定や組織の見直しに伴い、各支会での役割分担等を検討していただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

「経験のないところに工夫はない」これは、私が教員になって間もない頃、先輩にいただいた言葉です。小教研が、私たちにとって貴重な「経験の場」であり、よりよい取組を試行錯誤する「工夫の場」であり続けるよう、互いに研鑽に励み、未来ある子どもたちの豊かな成長につながるよう、ご協力をお願いいたします。